

農林水産商工常任委員会資料

(令和8年3月23日)

項 目	ページ
■ 米の価格動向について 【生産振興課、食パラダイス推進課】……………	2
■ 令和8年緑の募金について 【森林づくり推進課】……………	3
■ 令和7年における水産物の水揚状況等について 【水産振興課】……………	4
■ 鳥取県藻場造成アクションプログラムⅣの策定について 【水産振興課】……………	6
■ 「食パラダイス鳥取県」の推進に向けた取組について 【食パラダイス推進課】……………	7
■ 一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について 【農地・水保全課】……………	10

農 林 水 産 部

米の価格動向について

令和8年3月23日
生産振興課
食パラダイス推進課

全国及び県内の米の価格動向について報告します。

1 全国の米の販売価格動向

○令和8年3月13日に公表された全国的な米の小売価格（KSP-SP 提供 POS データ）は、3月2日の週の平均価格は4,013 円/5kg（税込）（対前週▲60 円）。

- ・平均価格は、9月以降は4,000 円/5kg（税込）を上回る価格で推移したが、1月以降は下落基調に転じている。
- ・銘柄米の平均販売価格は前週比▲65 円の4,114 円/5kg（税込）
- ・ブレンド米等の平均販売価格は前週比▲40 円の3,755 円/5kg（税込）



2 県内小売店への調査（聞き取り）概要

(1) 県内の状況（R8. 3. 16～18 県内小売店 10 店舗への調査結果）※ 2 店舗未回答

※事業者数ではなく店舗数で記載 ※価格はすべて税込

- 県内の小売店において在庫は十分に確保されている。
- 現時点で定点品目である県産コシヒカリの販売価格は5kg 4,498～5,054 円(3/9時点:最高値5,378 円)。1店舗で県産コシヒカリの価格が324 円下がった。
- 依然、精米時期から1か月程度経過した米を割引販売（店舗により1～3割引）するなど、滞留在庫が生じないよう対策を講じている。
- 令和6年度の米不降、ほとんど見られなかった県産米特価商品の広告掲載（曜日限定の特価販売など）が復活。店舗によっては広告掲載した安価なブレンド米（5kg3,180 円）の売れ行きが好調と回答。
- 1か月前は在庫を消化するため、仕入価格は変わらないものの各店舗（小売店）が販売価格を下げて販売している状況である旨、複数店舗から回答があったが、仕入価格も多少下がってきた様子。
- 今後の価格動向については、回答のあった8店舗中、7店舗が「下がる」、1店舗が「変わらない」と答えた。

(2) 調査対象店舗

県内のスーパーマーケット、ドラッグストア等（10 店舗）

- 〔東 部〕 2 店舗
- 〔中 部〕 1 店舗
- 〔西 部〕 2 店舗
- 〔広域展開〕 5 店舗

(3) 調査方法及び項目

購入制限、在庫状況、入荷状況、価格動向（見込み）、店頭価格 等

令和8年緑の募金について

令和8年3月23日
森林づくり推進課

3月25日(水)から公益社団法人鳥取県緑化推進委員会により、県下一円で春の「緑の募金」運動が実施されます。

県は、この活動を支援し、県内の一層の森林整備・緑化の推進と県民の緑化意識の高揚を図ります。

1 令和8年緑の募金について

- (1) 運動期間 春期 3月25日(水)～5月31日(日)
秋期 9月1日(火)～10月31日(土)
- (2) 実施主体 公益社団法人鳥取県緑化推進委員会(理事長 福田 俊史 鳥取県会議議長)
- (3) 募金目標 19,000千円(令和7年実績額:18,976千円)
- (4) 使 途 森林整備や緑化活動を行う自治会やボランティア団体等の支援、みどりの少年団の育成、学校等緑化活動の推進

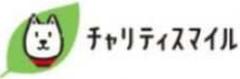
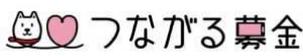
2 街頭キャンペーン

春の「緑の募金」運動開始に当たり、みどりの少年団等による街頭での募金活動を行い、「緑の募金」運動への理解と協力を呼びかけます。

場 所	イオンモール鳥取北	イオンモール日吉津
日 時	3月25日(水) 午前10時から11時30分まで	
参加者	みどりの少年団、鳥取市、鳥取県、公益社団法人鳥取県緑化推進委員会	みどりの少年団、日吉津村、鳥取県、公益社団法人鳥取県緑化推進委員会

《参考》

本県では、ソフトバンク(株)による環境保全等への寄附の仕組み「チャリティスマイル」「つながる募金」を活用した募金についても(公社)鳥取県緑化推進委員会で受け付けています。

区分			
募金元	対象	ソフトバンクユーザー (スマホ料金合算)	だれでも (クレジットカード、PayPayから)
	金額	10円/月+10円/月(ソフトバンクが負担) (1ユーザーあたり)	100円～10,000円/回(1ユーザーあたり)
募金用途	環境保全活動		
募金の入金	・募金者は都道府県単位での募金先の指定ができない ・集まった寄附金は都道府県で均等割りして毎月指定口座に振り込み	・募金者は都道府県単位で募金先の指定ができる ・集まった寄附金は都道府県単位で集計して毎月指定口座に振り込み	
募金開始	令和7年8月20日～	令和7年7月3日～	
利用料等	不要	寄付額の2.4%	

令和7年における水産物の水揚状況等について

令和8年3月23日
水産振興局水産振興課

令和7年の県内漁港全体での水揚量は133,897トンで、前年に比べ1.4%増加し、水揚金額は30,553百万円で4.4%増加しました。

1. 令和7年における水産物の水揚状況

■漁業種類ごとの水揚状況

区分	水揚量 (前年同期比)	水揚金額 (前年同期比)	主な魚種	水揚量 (前年同期比)	水揚金額 (前年同期比)	状況
沿岸漁業 (養殖、刺網、小底、 定置網等)	4,482トン※ (0.1%増)	3,371百万円※ (8.7%増)	サワラ	165トン (10.6%増)	141百万円 (14.3%減)	10月下旬以降、西部海域を中心に大型サワラの漁獲が見られた。単価は前年を下回ったものの、淀江・中山に加え境港支所でも活締め出荷が行われたことで、一定の付加価値化が図られた。 全国的な資源減少に加え、海水温の上昇が夏季のみならず冬季にも及んだ影響で、来遊時期や漁場形成が不安定となり、漁獲量・金額ともに大きく減少。
	※うち養殖を除く水揚量 2,305トン (15.8%減)	※うち養殖を除く水揚金額 1,959百万円 (0.3%減)	ハマチ・ブリ	96トン (80.8%減)	41百万円 (81.9%減)	
沖合底びき網	5,332トン (4.1%減)	5,500百万円 (2.5%減)	ズワイガニ	597トン (10.8%増)	2,107百万円 (9.9%減)	2025年11~12月は、松葉がには前年同期間比65%増、平年比20%増で好漁だった一方、単価が安い小型個体(甲幅10.5~12.5cm)の割合が前年の倍近く増えており、全体の単価は減少。ただし、品質の高い大型の松葉がこの単価は上昇。雌は水揚げ枚数制限により前年並み(前年比5%減)の水揚を維持。 2023年の極端な不漁から漁獲量は回復したが、前年並みで平年を下回る(過去5年平均比47%減)、低調な漁獲量となった。春漁は不調だったが、秋漁が好漁となり前年並の漁獲量を維持。
			ハタハタ	517トン (16.2%減)	461百万円 (1.4%増)	
大中型・中型まき網	112,250トン (2.1%増)	14,621百万円 (2.7%増)	クロマグロ	1,131トン (6.0%増)	1,739百万円 (4.0%増)	TAC上限まで漁獲され、100kg以上の大型個体の割合が30.9%(過去10年平均9.7%)と高く、近年で最も高い水準となった。単価は、過去20年間で4番目の高値となり、「身質」、「脂」の評価も良く、「境港天然本まぐろ」のブランド力が高まっている。 2月~5月にかけて親魚主体の水揚げが前年・前年並み~上回り、好調に推移した。水揚金額の減少については、春の盛漁期において単価が低く推移したことが主要因であると考えられる。 昨年と同様に冬(1月~2月)、春(5月~6月)の水揚量が好調に推移し、各月前年並み・平年を上回る水準であった。
			マイワシ	51,952トン (1.0%減)	2,497百万円 (31.0%減)	
			マサバ	42,717トン (5.0%増)	5,245百万円 (2.0%増)	
べにずわいかにかご	5,758トン (11.9%増)	2,757百万円 (34.2%増)	ベニズワイ	5,758トン (11.9%増)	2,757百万円 (34.2%増)	コロナ禍以降の水産加工業回復により需要が増加しているが、供給が少なく単価が上昇している。2024年秋にベニかご漁船1隻が座礁沈没し、しばらく復旧の見通しが立たないことも供給不足の一因。

(単位: トン、百万円、円/kg)

区 分		R6	R7	対前年差	対前年増減率(%)	備考	
県内漁港での水揚合計 ()は境漁港の水揚げで内数	水揚量	132,068 (125,655)	133,897 (127,723)	1,828 (2,068)	1.4 1.6	数値が各漁業種類の合計値とならないのは小数点以下の値が影響しているため。(表示は小数点以下を四捨五入)	
	水揚金額	29,270 (23,939)	30,553 (24,613)	1,283 (674)	4.4 2.8		
	単 価	222 (191)	228 (193)	7 (2)	3.0 1.2		
	単 価	4,478 (2,737)	4,482 (2,305)	4 △ 432	0.1 △ 15.8		
県内漁港での漁業種類ごとの水揚状況	沿岸漁業 (養殖、刺網、小底、 定置網等)	水揚金額 (下段:養殖除く)	3,101 (1,964)	3,371 (1,959)	270 △ 5	8.7 △ 0.3	【主な魚種】 養殖ギンザケ、スルメイカ、ケンサキイカ、養殖トラフグ、ハマチ、サワラ、アジ類、イワガキ
		単 価	692	752	60	9	
		水揚量 (下段:養殖除く)	5,561 (5,639)	5,332 (5,500)	△ 228 △ 139	△ 4.1 △ 2.5	
沖合底びき網	水揚金額	1,014	1,031	17	2	【主な魚種】 ズワイガニ、アカガレイ、ソウハチ、エビ類	
	単 価	109,941	112,250	2,310	2.1		
	水揚量	14,233	14,621	388	2.7		
大中型・中型まき網 ※ 県外漁業者の水揚げしたものを含む	水揚金額	129	130	1	1	【主な魚種】 イワシ類、サバ、アジ、ブリ類、クロマグロ	
	単 価	5,148	5,758	610	11.9		
	水揚量	2,054	2,757	703	34.2		
べにずわいかにかご ※ 県外漁業者の水揚げしたものを含む	水揚金額	399	479	80	20	【主な魚種】ベニズワイ	
	単 価	6,381	5,469	△ 912	△ 14.3		
	水揚量	3,573	3,464	△ 108	△ 3.0		
その他(境港市場での県外者水揚分)	水揚金額	560	633	74	13	—	
	単 価	561	605	45	8.0		
	水揚量	671	840	169	25.1		
【参考】 小型いか釣り (県内漁業者の漁獲量) ※ 県外漁港へ水揚げしたものを含む	水揚金額	1,197	1,387	190	16	【主な魚種】 スルメイカ、ケンサキイカ	
	単 価	561	605	45	8.0		
	水揚量	671	840	169	25.1		

2. 「浜の活力再生プラン」について

漁業者の所得を1割以上向上させることを目指し、それぞれの地域の現状に合わせて収入向上の取組やコスト削減の取組などを「浜の活力再生プラン」としてとりまとめて取り組んでいます。

第二期計画期間の令和元年度から令和5年度までの計画に引き続き、令和6年度以降の5年間は第三期計画に基づく取組を推進しています。

■県内4地域における令和6年の「浜の活力再生プラン」の状況

再生委員会 区分	関係 市町村	主な取組内容 (プランより一部抜粋)	第二期計画期間 R1～R5 (千円)	第三期計画期間 R6～R10 (千円)	第三期計画期間の状況
岩美地域	岩美町	<ul style="list-style-type: none"> 水産物の付加価値向上 加工品の開発、生産、販売と漁村カフェの運営 担い手の確保及び育成 省エネ・省コスト活動の推進による競争力強化 観光資源を活用した海業促進による地域活性化 	基準額 H29年：1,693,474 所得向上目標 R5年：1,864,662 (+10%) 所得向上実績 R1年：1,632,333 R2年：1,831,562 R3年：1,846,278 R4年：1,919,460 R5年：1,947,352 (基準額比+15.0%)	基準額 H30～R4年平均： 1,786,904 所得向上目標 R10年：2,036,462 (+14%) 所得向上実績 R6年：1,851,159 (基準額比+3.6%)	沖合底びき網の船上凍結機を活用したエビの高鮮度出荷、白子をもつ雄のマダラを選別出荷により取組魚種については水揚げ金額が増加した。一方でケンサキイカ等の漁獲量減少により沿岸漁業全体での水揚げ金額は減少した。
	第二期 H31.3.27付 水産庁長官承認 第三期 R6.3.21付 水産庁長官承認				
中部地域	鳥取市、湯梨浜町	<ul style="list-style-type: none"> 水産資源と漁場の管理による持続的生産体制づくり 水産物の生産拡大による漁業収入の向上 省燃油対策および省力化の推進による漁業コスト削減 朝市とイベント開催による賑わい創生 	基準額 H29年：699,824 所得向上目標 R5年：776,849 (+11%) 所得向上実績 R1年：842,397 R2年：722,329 R3年：604,674 R4年：628,394 R5年：877,840 (基準額比+25.4%)	基準額 R4年：629,784 所得向上目標 R10年：702,171 (+12%) 所得向上実績 R6年：636,844 (基準額比+1.1%)	ケンサキイカの墨処理やサザエの砂抜き等により、主要魚種のkg単価は増加した。一方で、回遊魚の減少により水揚げ金額は減少し、北海道産オオズワイガニ流通により親がに(メスガニ)の単価は下落した。
	第二期 H31.3.27付 水産庁長官承認 第三期 R6.8.1付 水産庁長官承認				
西部地域	琴浦町、大山町、米子市	<ul style="list-style-type: none"> 水産物の鮮度向上、加工品開発及び販路開拓による所得の向上 共同利用施設の再編整備、漁船機能の高度化、省エネ活動の推進による競争力の強化 漁港や近郊の直売所、道の駅等における直売イベント等の開催による漁村の活性化 	基準額 H25～29平均： 322,949 所得向上目標 R5年：387,578 (+20%) 所得向上実績 R1年：411,234 R2年：139,859 R3年：210,148 R4年：209,298 R5年：273,724 (基準額比△15.2%)	基準額* H30～R4年平均： 8,305 所得向上目標* R10年：9,149 (+10%) 所得向上実績 R6年：10,031 (基準額比+20.8%) ※第三期より基準額と所得向上目標を構成員総所得から1人当たりに変更	主要魚種のブランド化や販路開拓、ウニ駆除、藻場造成、イワガキ礁の岩盤清掃等の漁場管理に取り組みながら漁業所得向上を目指したが、物価高騰、海洋環境の変化等により漁獲金額の大幅な増加は見られなかった。
	第二期 H31.3.27付 水産庁長官承認 第三期 R6.8.1付 水産庁長官承認				
境港地域	境港市	<ul style="list-style-type: none"> 高度衛生管理型漁港・市場整備による水産物の水揚げ能力及び衛生管理体制の向上 クロマグロの産地一次加工の推進 境港ブランドの創出・6次産業化の推進 境漁港に隣接する直売センター直営店における境港産水産物販売による販売数量及び単価の向上 	基準額 H29年：2,557,325 所得向上目標 R5年：3,225,074 (+26%) 所得向上実績 R1年：1,967,941 R2年：1,967,267 R3年：2,049,615 R4年：2,774,016 R5年：3,748,659 (基準額比+46.6%)	基準額 H30～R4年の5中3平均： 2,110,243 所得向上目標 R10年：2,607,033 (+24%) 所得向上実績 R6年：2,454,731 (基準額比+16.3%)	県内外問わず魚食普及活動が盛んに実施され水産物をメインとしたイベントや都市圏での販促イベントにより、境港産水産物の認知度向上や消費拡大につながった。水揚げ数量が増加傾向にあることや、主力であるベニズワイガニが高単価で推移したという要因もあり、漁業収入の向上に影響したと考えられる。
	第二期 H31.3.27付 水産庁長官承認 第三期 R6.3.21付 水産庁長官承認				

鳥取県藻場造成アクションプログラムⅣの策定について

令和8年3月23日
水産振興局水産振興課

本県における藻場の保全と造成や水産業を推進していくための基本指針となり、藻場の大切さや役割を認識し行政機関、水産業関係者の果たすべき役割をより多くの方に理解していただくことを目的として、今後5年間(R8～12年)の具体的な行動(アクションプログラム)を定めましたので報告します。

<改訂理由>

アクションプログラムⅢは、令和4～8年度を計画期間としていた。しかし、年々、鳥取県沿岸の水温が上昇しており、県内藻場の大規模な消失が懸念され、早急に新たな高水温対策が必要となった。そのため、アクションプログラムⅢの計画期間を一年前倒し、「海水温の上昇に対応した藻場造成」を重点目標としたアクションプログラムⅣを策定することとした。

(1) 鳥取県藻場造成アクションプログラムとは

- 鳥取県沿岸の藻場の回復による、豊かな漁場環境を維持・創出、漁業生産の持続的な拡大を目的とする、藻場造成のための計画。
- 藻場の役割には、①水質浄化、②生物多様性の維持、③CO₂の吸収、④波浪からの海岸保全、⑤環境学習の場など様々な役割があり、漁業においても藻場は多様な生物の産卵、育成の場として重要な役割を担っている。

(2) 鳥取県藻場造成アクションプログラムⅢ(R4～R7)の活動実績と課題

※重点目標：「県全域にわたるウニ類の駆除体制の構築と強化」

ア 活動実績

- ムラサキウニの効果的な駆除方法として集中駆除を実施し、多くの地区でムラサキウニの減少と海藻の増加を確認した。
- 深場での藻場造成を実施し、水深13mでツルアラメを移植したところ増殖が確認された。
- 人工衛星画像やドローン空撮等を用いて、藻場分布面積の把握手法を確立した。

イ 課題

高水温が原因とみられる海藻の消失がみられ、高水温対策を早急に実施する必要がある。

(3) 鳥取県藻場造成アクションプログラムⅣ(R8～R12)の活動内容と実施体制

※重点目標：「海水温の上昇に対応した藻場造成」

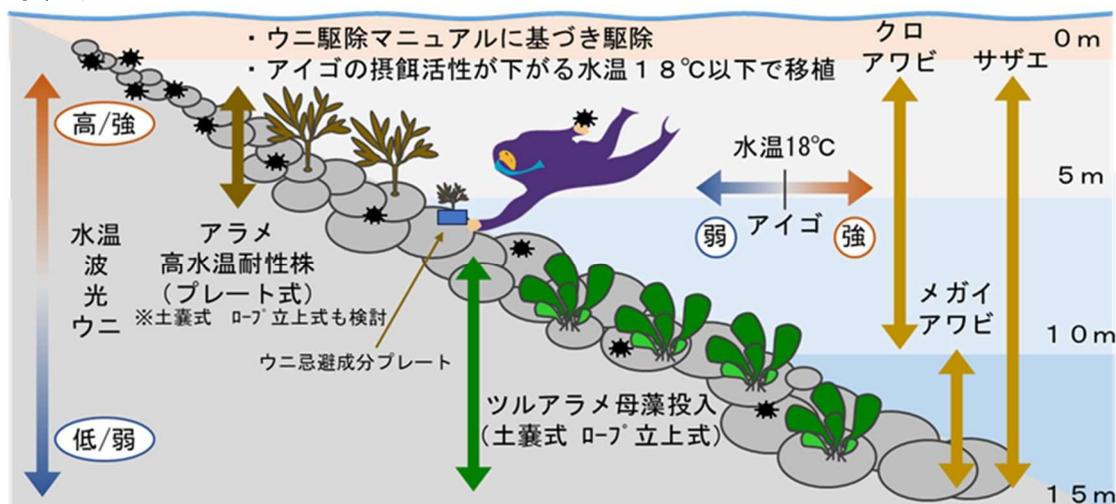
ア 調査研究

- 高水温耐性(29℃以上に耐える)アラメを創出し、海域へ移植する。
- 移植可能な環境要因を把握し、より効果的な藻場造成手法を開発する。
- ウニの忌避成分を活用し、ウニの食害を受けない藻場造成を行う。

イ 漁業者等による藻場造成活動

- 栽培漁業センター及び栽培漁業協会が培養した高水温耐性アラメを県内の適地に移植する。
- 栽培漁業センター及び栽培漁業協会が、現在検討している藻場造成手法を確立し、県内各所で有用な海藻等の母藻投入を実施する。
- 県の作成したウニ駆除マニュアルに従って、ウニ駆除を引き続き実施する。

<取組イメージ>



「食パラダイス鳥取県」の推進に向けた取組について

令和8年3月23日
食パラダイス推進課

令和7年12月から令和8年2月にかけて、食パラダイス鳥取県の推進に係るPRイベント等を下記のとおり行いましたので、報告します。

記

1 「とっとり・おかやま海の幸フェア」の実施

鳥取県と岡山県が連携し、とっとり・おかやま新橋館において両県の水産物が楽しめる「とっとり・おかやま海の幸フェア」を開催し、1階ショップで松葉がにを販売した。2階レストランでは、蟹と牡蠣を一度に味わえるピザ、べにずわい蟹重、松葉がに御前などの特別メニューを販売した。またPRイベントとして、かに汁のふるまい、かにの食べ方等をレクチャーするセミナー、かに重量当てクイズを開催し、来場者に鳥取県の水産物をPRした。

また、岡山県庁の食堂「おかやま晴れの国食堂」では、両県の水産物を使ったメニューも提供した。

ア 実施時期：12月1日（月）～25日（木）

イ 実施場所：とっとり・おかやま新橋館（東京都港区新橋）

ウ PRイベント来場者数：約5,500名

エ 来場者の反応：

- ・寒い日にかに汁が美味しかったので、家でも作りたい。
- ・地元ならではのかにのキレイな食べ方を真似したくなった。
- ・セミナーに参加してよかった。



2 ペット博2026横浜に「鳥取県産ジビエ」を出展

ペット博2026横浜に「鳥取県産ジビエ」を原料としたペットフードやレザーグッズ等を出展し、鹿肉を中心としたジビエの利活用の提案と販路開拓を行うとともに、鳥取県ジビエをPRした。

ア 実施時期：1月10日（土）～12日（月・祝）

イ 実施場所：パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）

ウ 出展内容

- ・若桜 猪鹿庵(じびえあん) 「鹿ジャーキー」
- ・NPO法人フェリース 「鹿ペットジャーキー」
- ・若桜 革工房Dear Deer 「ジビエレザー首輪、リード」

エ 累計来場者：13,595名（多くの来場者がペット同伴）

オ 来場者の反応：

- ・低脂質なのに高タンパクで鉄分豊富な鹿肉はペットフードに最適。
- ・添加物が含まれておらず安心安全。
- ・鳥取県がジビエの産地だとは知らなかった。



3 「一大阪・関西万博記念—とっとりサンドパビリオン」オープニングセレモニーにおける食のPR

大阪・関西万博における本県の取組成果を万博レガシーとして未来へ引き継ぎ活用するため、「夢みなとタワー」に設置された「一大阪・関西万博記念—とっとりサンドパビリオン」のオープニングセレモニーに合わせ、サンド・アライアンス同盟国や砂関連の料理を提供するグルメブースやキッチンカー、物産販売ブースを出展し、食パラダイス鳥取県の食のPRを行った。

ア 実施時期：1月31日（土）

イ 実施場所：夢みなとタワー1階エントランス（境港市）

ウ セレモニー当日のタワーへの来館者数：約1,600名

エ 出展者の反応：

- ・当日販売していたひよこ豆サラダを駐日ヨルダン・ハシェミット王



駐日ヨルダン大使（右）

国全権特命大使ナーセル・シュライデ閣下に御試食いただいたところ、お墨付きをいただいた。

オ 来場者の反応：

- ・また万博に来たようだった。特に食べ物が万博のようでとても良く、美味しかった。
- ・鳥取の食材で作った海外の料理が食べられて、嬉しい。

4 「鳥取ジビエの旅」モニターツアーを県西部で開催

ジビエを満喫する「鳥取ジビエの旅」モニターツアーを1泊2日の日程で開催し、関西からの参加者20名が、大山山麓での狩猟体験や、ハンターと語りいながらジビエを堪能する夕食、ジビエレザークラフト体験など、捕獲から食や活用までを体験し、鳥取県産ジビエに関する理解や関心を高めた。

ア 実施時期：2月21日（土）～22日（日）

イ 実施場所：鳥取県西部（本池美術館、美食倶楽部Gibier 人 櫻川、ブルワリーレストランピアホフガンバリウス、道の駅奥大山他）

ウ 参加者数：関西圏に居住する30代から70代の20名

※100名を超える応募者の中から抽選で20名を選定

エ 参加者の反応：

- ・鹿の解体を初めて見て衝撃を受けたが、こうして人間は生かされていると勉強になった。
- ・ツアーに参加しなければ、見ることも、知ることも、体験はできなかった。貴重な経験に大感謝。



5 大阪府で開催されたイベント「星空スタンド」における星空舞のPR

大阪市なんばエリアの風物詩的イベントである「星空スタンド」において、JA全農とっとり（全国農業協同組合連合会鳥取県本部）と合同で「星空舞PRブース」を出展し、星空舞の塩むすびを販売して星空舞をPRした。

ア 「星空スタンド」の概要：

「食」とその魅力を提供する「人」、なんばの歴史である「芸」の3つの魅力を融合し、「街をつなぎ、街をにぎやかに、街をおもしろくする」をテーマに開催される今年で11回目を迎えたイベント。

イ 主催：南海電気鉄道株式会社

ウ 実施時期：2月6日（金）～15日（日）（※イベントの全体日程）

うち、星空舞の販売は、2月13日（金）、14日（土）、15日（日）

エ 実施場所：なんばカーニバルモール（大阪府大阪市中央区難波）

オ 「星空舞」塩むすびの販売個数：13日280個、14・15日420個

カ 来場者の反応：

- ・「星空スタンド」と「星空舞」のネーミングの親和性が高く、興味を持って話しかけてくださる方や覚えてくださる方も多数あった。
- ・塩むすびはご飯の味も炊き方も程良く、1個食べた方が「美味しかった」と複数個購入するために戻ってこられるパターンが何度もあった。
- ・3日間通われた方、他の来場者に購入を薦められる方もあった。



6 四季の県魚を使った親子お魚料理教室の実施

四季の県魚（県産魚）について、子どもが興味を持ち、家庭で魚を食べるきっかけを増やすことで、県産魚の消費増加につなげることを目的に、親子で楽しむお魚料理教室を開催した。参加者は、春の県魚の中から「サーモン」を使ったお家でも簡単にできる料理（ライスバーガー）と「マダイ」の捌き方を体験した。

ア 実施時期：2月28日（土）

イ 実施場所：伯耆しあわせの郷（倉吉市）

ウ 参加者数：約100名

エ 参加者の反応：

- ・鳥取に県魚がたくさんあることを知ったので、産地の魚をもっと食べたいと思った。



- ・魚を自分で捌く機会がなく、親のチャレンジにもなり、親子で良い食育になった。
- ・子どもが魚を捌けるようになり、魚への興味が高まった。また捌かせてあげようと思った。
- ・前回かこの捌き方を学んで、今シーズンは10回近くカニを食べた。

7 「鳥取和牛 de ウッシッシ〜牛牛（ギュギュ）っとまんぷくご褒美旅〜」キャンペーン

鳥取和牛の県内外での認知度向上及び鳥取和牛を目的とした鳥取県への誘客を促進するため、県内飲食店、宿泊施設で、鳥取和牛を使用したメニューを食事された方及び牛肉を購入された方を対象に、抽選で鳥取和牛肉が当たるキャンペーンを実施した。

- ア 実施期間：11月1日（土）～2月28日（土）
- イ 参加店舗：飲食店34店舗、宿泊施設12施設
- ウ 応募者数：369名
- エ 参加者の反応

- ・こうしたキャンペーンがあると、和牛を食べるきっかけになる。
- ・ホリデーシーズンやお祝い事、記念日に合わせた特別なメニュープランがあるとよい。



8 食パラダイス鳥取県公式グルメサイト「とりたべ」

食パラダイス鳥取県公式グルメサイト「とりたべ」は、県産特産品や県産食材を用いた加工品、地元グルメの食レポを掲載するポータルサイトで、令和4年度に開設し、今年度で4年目を迎えた。

県民が推す地元グルメや鳥取県ならではの魅力ある食に関する情報を、県内外の消費者に対して強力に発信するため、SNSにおいて発信力のある「ローカルインフルエンサー」（通称：とりたべローカルインフルエンサー）を県が募集・登録し、「とりたべ」への食レポ記事の掲載を依頼している。

開設後、閲覧数は安定的に増加傾向にあり、前年度と比べても一定の層が閲覧している状況で、認知が進んでいる。

- ア 「とりたべ」アクセス数の増
令和6年度：255,343件 → 令和7年度：344,952件
- イ これまでの公開記事数：791件（うち令和7年度分187件）
- ウ 令和7年度とりたべローカルインフルエンサーの数：21名



9 「食パラダイス鳥取県」アンバサダー

鳥取県の食の魅力向上と情報発信を行うため、「食パラダイス鳥取県」推進の趣旨に賛同し、その実現に向けて新たなチャレンジを行う事業者を「食パラダイス鳥取県」アンバサダーとして登録している。

登録事業者には、メニューや広告、包装資材等に利用できるロゴマークデータや店舗等に掲出するためのPR資材（ノボリ、POP広告）を提供し、「食パラダイス鳥取県」のPRに御協力いただいている。

「食パラダイス鳥取県」の浸透のため、様々なイベント開催、展示会への出展、メディアを活用した情報発信等を展開することにより、「食パラダイス鳥取県」アンバサダーの登録数は着実に増加し、3月6日時点で920件となっている。

グルメサイト「とりたべ」ホーム画面



10 今後の対応

インバウンドの順調な回復や国際定期便の増便などの機会を捉え、関係団体等と連携を図りながら食パラダイス鳥取県の魅力を発信し、国内外での誘客につなげる。

一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について

令和8年3月23日
農地・水保全課

【新規分】

主務課	工事名	工事場所	契約の相手方	契約金額	工期	契約年月日	入札方法
農地・水保全課 (西部総合事務所農林局)	掛相地区ため池(二石池) 改修工事(その2)	西伯郡 南部町 掛相	船越建設株式会社 代表取締役 船越 秀志	106,689,000円 (予定価格) 106,690,100円	令和8年2月25日 ～ 令和9年1月12日	令和8年2月24日	制限付 一般競争入札 (2社)

【変更分】

主務課	工事名	工事場所	契約の相手方	契約金額	工期	契約年月日	変更理由
農地・水保全課 (中部総合事務所農林局)	北条用水路改修工事(5工区)	倉吉市 巖城	株式会社ヘイセイ 代表取締役 種子 善之	(当初契約額) 97,130,000円	令和7年8月8日 ～ 令和8年3月10日	(当初契約年月日) 令和7年7月30日	
				(変更後契約額) 105,432,800円 (変更額) 8,302,800円	令和7年8月8日 ～ 令和8年5月15日	(変更契約年月日) 令和8年3月10日	
	松谷第3ため池改修工事 (その3)	東伯郡 琴浦町 松谷	株式会社共栄組 代表取締役社長 山崎 浩貴	(当初契約額) 186,010,000円	令和7年4月11日 ～ 令和8年3月12日	(当初契約年月日) 令和7年2月14日	
				(変更後契約額) 209,968,000円 (変更額) 23,958,000円	令和7年4月11日 ～ 令和8年3月12日	(第1回変更契約年月日) 令和7年12月5日	
					令和7年4月11日 ～ 令和8年5月29日	(第2回変更契約年月日) 令和8年3月12日	
農地・水保全課 (西部総合事務所農林局)	淀江地区ほ場整備(北-2工区)工事	米子市 淀江町 淀江	株式会社特研工業 代表取締役 鋪倉 健	(当初契約額) 143,660,000円	令和7年3月27日 ～ 令和8年3月18日	令和7年3月26日	
				(第1回変更後契約額) 186,699,700円 (変更額) 43,039,700円	令和7年3月27日 ～ 令和8年5月29日	(第1回変更契約年月日) 令和8年3月13日	

主務課	工事名	工事場所	契約の相手方	契約金額	工期	契約年月日	変更理由
	淀江地区ほ場整備(用排水路)工事	米子市 淀江町 淀江	株式会社所子建設 代表取締役 中川 郁夫	(当初契約額) 157,300,000円	令和7年8月12日 ～ 令和8年3月23日	令和7年8月8日	
				(第1回変更後契約額) 205,043,300円 (変更額) 47,743,300円	令和7年8月12日 ～ 令和8年5月29日	(第1回変更契約年月日) 令和8年3月17日	・管路布設は暫定断面までの埋戻としていたが、地下水位が高く浮力対策が必要であることが判明したため、完成断面まで盛土施工する必要が生じたことによる工事費の増額及び工期の延伸。
	青木池地区ため池改修工	西伯郡 南部町 浅井	株式会社所子建設 代表取締役 中川 郁夫	(当初契約額) 141,130,000円	令和7年3月25日 ～ 令和8年3月19日	令和7年3月24日	
				(第1回変更後契約額) 153,716,200円 (変更額) 12,586,200円	令和7年3月25日 ～ 令和8年3月27日	(第1回変更契約年月日) 令和8年3月11日	・ICT活用工事の必要経費の追加による工事費の増額。 ・残土仮置場における他工事との調整が必要になったことによる工期の延伸。
	折渡地区ほ場整備(2-1工区)工事	日野郡 日南町 折渡	サワタ建設株式会社 代表取締役 澤田 信介	(当初契約額) 94,270,000円	令和7年4月1日 ～ 令和8年1月5日	(当初契約額) 令和7年3月31日	
				(第1回変更後契約額) 138,021,400円 (変更額) 43,751,400円	令和7年4月1日 ～ 令和8年3月23日	(第1回変更契約年月日) 令和7年7月8日	・担い手農家から次年度の作付面積を増やしたいと営農計画の変更協議を受け、施工区域を変更したことによる工事費の増額及び工期の延伸。
				(第2回変更後契約額) 145,381,500円 (変更額) 7,360,100円	令和7年4月1日 ～ 令和8年3月23日	(第2回変更契約年月日) 令和7年12月23日	・各ほ場で湧水が多々確認され、その湧水処理工を追加したことによる工事費の増額。
				(第3回変更後契約額) 145,381,500円	令和7年4月1日 ～ 令和8年10月30日	(第3回変更契約年月日) 令和8年3月10日	・施工区域一帯の基盤土は含水比が高いため冬の施工を一時中止し、乾燥が進む春以降に再開するよう地元から要望があったことに伴う工期の延伸。